

PRAEVIDENTIA DAILY (3月10日)

昨日までの世界：ドル/円がキャッチアップ

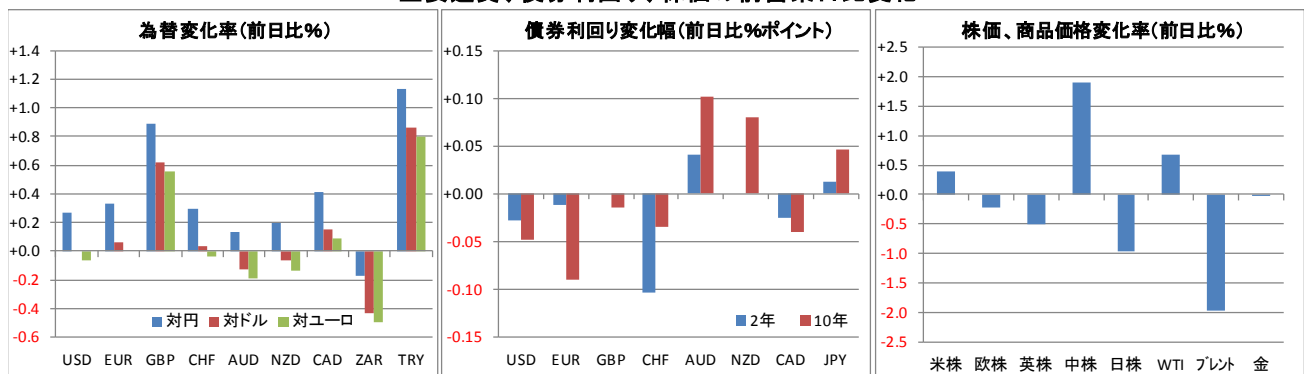
昨日は材料が少ない中で、ドルクロス相場は概ね先週金曜のドル高から、米金利と共にドルが小反落する動きとなった。但しドル/円相場は、先週金曜のドル高に出遅れていた面があったことから、米2年債利回りの小反落にも拘らずドル続伸となり、120円台後半から一時121.41円と先週金曜の高値(121.28円)を僅かながら更新した。

ユーロ/ドルは、週明けのアジア市場で続落し一時1.0821ドルと直近安値を更新したが、その後はECBの量的緩和開始とそれを受けたドイツ国債利回りの低下にも拘らず、一時1.09ドル乗せへ小反発した。

豪ドル/米ドル相場も同様にアジア時間に0.7681ドルへ続落後、0.77ドル台前半へ小反発したが、反発は非常に限定的に留まり、その後0.77ドル丁度近辺へ反落している。

大幅下落が続いていたトルコリラは、ダウトオール首相が7日にバシチュ中銀総裁とリラ安を巡って会談したことが明らかになったこと、そして9日にトルコ中銀が1週間物ドル建て預金金利を7.5%から4.5%へ、1週間物ユーロ建て預金金利を6.5%から2.5%へ引下げ、外貨預金の魅力を大幅に引き下げたことから、1%近く上昇、ドル/リラは2.63リラから一時2.587リラへ、リラ/円相場は46円丁度近辺から46.64円へリラが上昇した。

主要通貨、債券利回り、株価の前営業日比変化



きょうの高慢な偏見：オーストラリアン・パーシェント

きょうの注目通貨：AUD↓

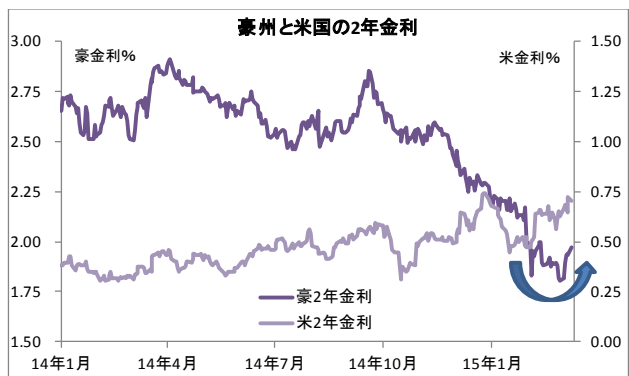
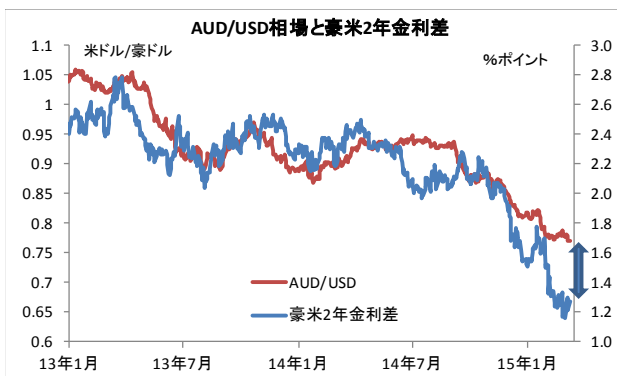
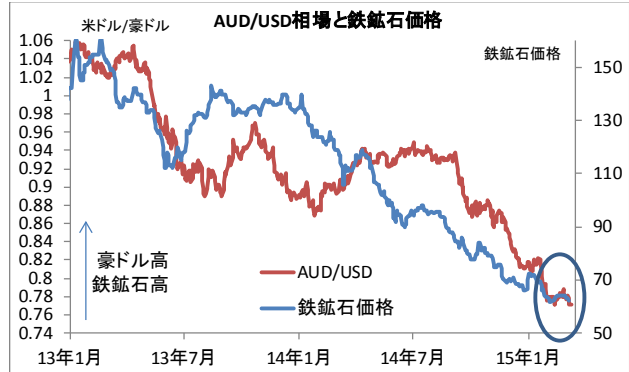
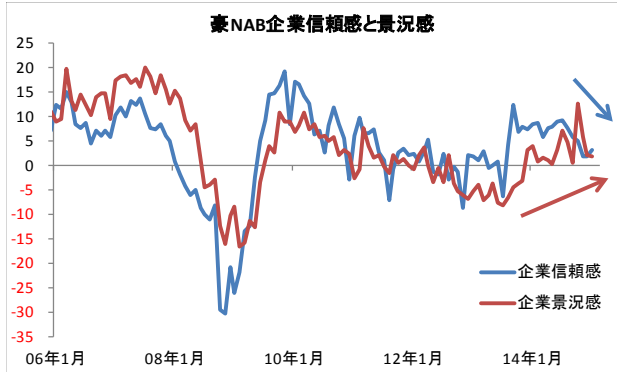
きょうの指標、イベント	時刻	前期	市場予想	備考
Fisher ダラス連銀総裁発言	8:30			タカ派、投票権なし
豪2月NAB企業景況感	9:30	2.0		
同企業信頼感		3		
中国2月総合CPI前年比	10:30	+0.8%	+0.9%	政府目標は+3.0%前後
EU財務相理事会				

(出所) トムソン・ロイター等を基にプレビデンティア・ストラテジー作成

本日も相場を動かしそうな材料が少なく、ドル/円は米2年債金利の反落が続くか、あるいは米株価の反発が続くかが注目される。米景気が堅調な一方で金融政策の正常化プロセスは非常にゆっくりとしたものになる可能性が高い中で、金利上昇と株高が同時に起こっていくとみられ、ドル/円はじり高方向が予想される。

豪ドル関連では中国CPIと豪NAB企業サーベイが発表されるが、中国経済指標は、特に更なる悪化の際に金融緩和を通じた景気刺激が行われるとしても、中国の成長率を加速させるような強力なものは期待できない中で、豪ドルなどかつての中国関連通貨の中国経済指標に対する感応度は低下している。むしろ豪ドルは今後の

利下げのペースと幅を見極めるため、豪州国内経済指標の重要度が高まっている。豪ドル/米ドルは基本的に豪米2年金利差と連動しているが、3月RBA会合後は据置を受けて豪金利が反発しているものの、米金利が上昇基調のため豪ドルに下押し圧力がかかっている状況だ。2月のRBA利下げにも拘らずNAB企業信頼感、景況感が悪化するようだと、追加緩和の必要性が強まり、豪金利の最低下と共に豪ドルは下落に向かう。



ディスクレイマー

当資料は情報提供のみを目的として作成されたものであり、金融商品の売買や投資など何らかの行動を勧誘するものではありません。ご利用に関しては、全てお客様ご自身でご判断下さいませようよろしくお願い申し上げます。

当資料は信頼できるとされる情報に基づいて作成されていますが、当社はその正確性を保証するものではありません。内容は予告なしに変更することがありますので、予めご了承下さい。

当資料は著作物であり、著作権法により保護されています。全文または一部を転載する場合は出所を明記して下さい。当資料は購読者向けに送付されたものであり、購読者以外への転送を禁じます。

プレビデンティア・ストラテジー株式会社
金融商品取引業者（投資助言・代理業）関東財務局長（金商）第2733号
一般社団法人 日本投資顧問業協会 会員番号 012-02641